

2022.1125

第5回中国地区老人保健施設大会 in山口

ぺあれんと通所リハビリにおける
新体制作りの取り組み

～①通所リハビリのサービスの総点検～

医療法人博愛会 介護老人保健施設ぺあれんと
通所リハビリテーションセンター 作業療法士 宮内順子

取り組みを開始した理由・・・

平均利用者数：50名前後で推移(定員80名)

利用者数減少に伴い、職員の移動
⇒現状維持 あきらめムード

2019年4月・・・

「活動・参加」に焦点を置く

自立支援型通所リハへと再構築

ぺあれんと通所リハビリは、2019年の4月より、様々な取り組みを開始しています。

なぜそのような取り組みを開始したかと言いますと、当時は平均利用者数も80名定員のところ、50名前後で推移しており、利用者数の減少に伴い、職員の他部署への移動もあり、「職員の人数も少ないから仕方がないか！」とややあきらめムードが漂っていました。このような中で、現状を見直し、「活動・参加」に焦点を置く自立支援型の通所リハビリテーションセンターを再構築しようと、取り組みを開始しました。

地域でオンリーワンの通所施設となるためには・・

➡ ブランディングを明確化することが必要

魅力ある通所リハビリ作りを行うことで
他の施設との差別化戦略を計画

- ① 現行の通所サービス(24項目)の総点検
- ② 朝の集い・夕の集いの改革
- ③ 利用者さま懇談会の開催
- ④ 失語症デイの開設

地域でオンリーワンの通所施設となるためには、まず、売りになるもの、ブランディングを明確化していくことが必要だと考えました。

そのために魅力ある通所リハビリ作りを行うことで、4つの差別化戦略を計画しました。1つ目が現行の通所サービスを24項目に分類し、総点検する。2つ目が朝の集い・夕の集いの改革 3つ目が利用者さま懇談会の開催 4つ目が失語症デイの開設です。今日は1つ目の通所サービスの総点検を中心にお話いたします。

自立支援型通所リハビリテーションの 新体制作りの3つのステージ

第1ステージ：2019年4月～2020年8月

稼働率向上⇒広報活動に重点を置いた活動

第2ステージ：2020年9月～2021年3月

第3ステージ：2021年4月～

自立支援を念頭に置いた新体制作りの取組み

これまで行ってきた自立支援型の通所リハビリテーションの新体制作りは大きく3つのステージに分かれます。第1ステージが2019年4月から2020年8月、第2ステージが2020年9月から2021年3月、第3ステージが2021年4月から、現在も継続中です。

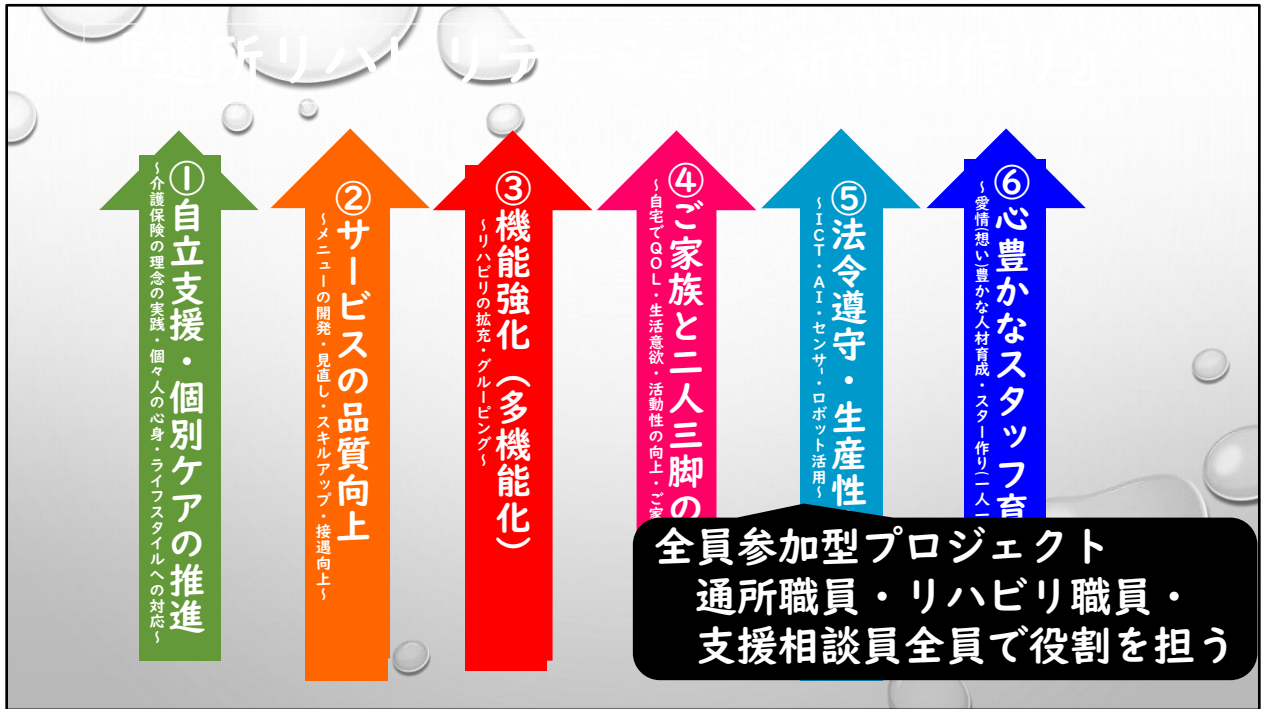
第1ステージは稼働率向上を目指して、広報活動に重点を置いて活動した時期であり、第2第3ステージが本格的な自立支援を念頭に置いた新体制作りの取組みの時期になります。今回お伝えするサービスの総点検は、第2・第3ステージで行っています。

全業務の総点検

1	朝礼・夕礼(申し送り)	9	体験・新規受け入れ	17	記録・連絡帳・その他帳票
2	送迎・車両管理・安全運転	10	家族面談(参加体験)・家族ケア推進	18	勤務シフト・就業管理
3	バイタル・処置・看護	11	入浴サービス	19	備品・施設管理
4	朝の集い・夕の集い	12	トイレ誘導・排泄介助	20	法令遵守・実地指導対策
5	リハビリテーション	13	食事サービス	21	会議運営(朝礼・夕礼・通所ミーティング・三役会議・運営会議その他)
6	鍼灸マッサージ・物療他	14	外出サービス	22	人材育成(内部・外部研修他)
7	アクティビティ・GW・クラブ活動	15	利用者さま懇談会・アンケート	23	ICT・AI・ロボット活用推進
8	カラオケ・シアター・ショーサービス(一人一芸)	16	自立支援・活動と参加の促進	24	施設内・法人内・地域連携促進

全業務の総点検として、現行の通所サービスをスライドのように24項目に分類し、それぞれの項目を6つの視点から総点検し、サービスごとの品質で差別化を図ることが目的です。24項目はスライドに示していますが、朝礼・夕礼に始まり、送迎、朝の集い・夕の集い、人材育成、連携と多岐にわたっています。黄色のマーカーを引いている項目は現在実際に点検中の項目です。

水色マーカーが、来月キックオフ会議を開始する予定のチームです。あそここに一人一芸という項目がありますが、これは総点検を行う中で、職員の秀でた一面を探し出し、その職員をスターにする！という取り組みです。今回の取り組みでは、利用者さま・職員を輝くスターにするという仕掛け作りも目的としてあります。



これら24項目を、
 スライドにあります6つの視点に沿って現状の課題を抽出し、課題
 解決に向けて具体的なアクションプランを立て実行していくもの
 です。この24項目の総点検にあたっては、全員参加型のプロジェ
 クトとして、通所職員・リハビリ職員・相談員全員が項目を分担
 し、役割を担っています。

自立支援・活動と参加の促進サービス				自立支援サービスのモットー			
担当者	原田・笠井	副担当者	尾崎・長松・山本	利用者自らが考え、行動し、べあれんと通所リハビリを再生する		利用者自らが考え、行動し、べあれんと通所リハビリを再生する	
通所サービスの目標 通所リハビリテーションの地域における使命と役割は、障害や認知症を有する高齢者（若年者）に、リハビリテーションの専門性を最大限に発揮し、介護保険の理念である自立支援を促進すると共に、ご家族（介護者）の介護負担を減らすことにあります。そこで、目標となるのは通所におけるサービス提供時の役割ではなく、利用者様・ご家族の自宅での生活改善やQOLの向上に繋がることです。そして、そのことを実現するには、ご家族様と連携し、通所日のみならず自宅でのホームワークなどご家族と二人三脚の自立支援の取り組みこそが目標となります。	自立支援サービスの目的と意義 ① 利用者の生活・人生をより豊かに、充実したものに（QOLの向上） ② 自己選択・自己決定・自己遂行を推進する ③ 利用者の生活機能を向上する ④ 利用者が自分の生活、人生、生きざまをセルフマネジメントする ⑤ 活動範囲・頻度・種類・質を拡大する	自立支援サービスのキーワード ① 利用者の生活・人生をより豊かに充実したものに（QOLの向上） ② 自己選択・自己決定・自己遂行を推進する ③ 利用者の生活機能を向上する ④ 利用者が自分の生活、人生、生きざまをセルフマネジメントする ⑤ 活動範囲・頻度・種類・質を拡大する	自立支援サービスの到達点 ① 利用者の生活・人生をより豊かに、充実したものに（QOLの向上） ② 自己選択・自己決定・自己遂行を推進する ③ 利用者の生活機能を向上する ④ 利用者が自分の生活、人生、生きざまをセルフマネジメントする ⑤ 活動範囲・頻度・種類・質を拡大する	自立支援サービスのモットー ① 利用者自らが考え、行動し、べあれんと通所リハビリを再生する ② 自己選択・自己決定・自己遂行を推進する ③ 利用者の生活機能を向上する ④ 利用者が自分の生活、人生、生きざまをセルフマネジメントする ⑤ 活動範囲・頻度・種類・質を拡大する	自立支援サービスの流れ ① 自己選択・自己決定・自己遂行を推進する ② 自己選択・自己決定・自己遂行を推進する ③ 自己選択・自己決定・自己遂行を推進する ④ 自己選択・自己決定・自己遂行を推進する ⑤ 自己選択・自己決定・自己遂行を推進する	自立支援サービスの課題 ① 自己選択・自己決定・自己遂行を推進する ② 自己選択・自己決定・自己遂行を推進する ③ 自己選択・自己決定・自己遂行を推進する ④ 自己選択・自己決定・自己遂行を推進する ⑤ 自己選択・自己決定・自己遂行を推進する	自立支援サービスの課題 ① 自己選択・自己決定・自己遂行を推進する ② 自己選択・自己決定・自己遂行を推進する ③ 自己選択・自己決定・自己遂行を推進する ④ 自己選択・自己決定・自己遂行を推進する ⑤ 自己選択・自己決定・自己遂行を推進する
他の通所事業者と差別化できていること ① 予定表があり、一人一人施設内での目標を視覚化できる。 ② 利用者の自主トレーニングがあり、自ら選択し課題に取り組める。 ③ 車椅子や50円券があり、自己選択し課題に取り組める。 ④ 利用者懇話会や朝夕の集い等、利用者主体の場がある。⑤しゃべる〜むがある。 ⑥ 利用者のニーズに合う入浴設備を選択できる。（完全個室、個室、大風呂）	利用者さま、ご家族に感動いただき地域で話題になっていること ① 利用者の行動予定表があり、絶対に退屈しない通所リ施設と話題になっている。 ② 利用者さまが自分たちで作る通所リ施設と話題になっている。 ③ 利用者さまが自分たちで作る通所リ施設と話題になっている。 ④ 利用者さまが自分たちで作る通所リ施設と話題になっている。 ⑤ 利用者さまが自分たちで作る通所リ施設と話題になっている。	利用者さま、ご家族に感動いただき地域で話題になっていること ① 利用者の行動予定表があり、絶対に退屈しない通所リ施設と話題になっている。 ② 利用者さまが自分たちで作る通所リ施設と話題になっている。 ③ 利用者さまが自分たちで作る通所リ施設と話題になっている。 ④ 利用者さまが自分たちで作る通所リ施設と話題になっている。 ⑤ 利用者さまが自分たちで作る通所リ施設と話題になっている。	利用者さま、ご家族に感動いただき地域で話題になっていること ① 利用者の行動予定表があり、絶対に退屈しない通所リ施設と話題になっている。 ② 利用者さまが自分たちで作る通所リ施設と話題になっている。 ③ 利用者さまが自分たちで作る通所リ施設と話題になっている。 ④ 利用者さまが自分たちで作る通所リ施設と話題になっている。 ⑤ 利用者さまが自分たちで作る通所リ施設と話題になっている。	自立支援サービスの課題 ① 自己選択・自己決定・自己遂行を推進する ② 自己選択・自己決定・自己遂行を推進する ③ 自己選択・自己決定・自己遂行を推進する ④ 自己選択・自己決定・自己遂行を推進する ⑤ 自己選択・自己決定・自己遂行を推進する	自立支援サービスの課題 ① 自己選択・自己決定・自己遂行を推進する ② 自己選択・自己決定・自己遂行を推進する ③ 自己選択・自己決定・自己遂行を推進する ④ 自己選択・自己決定・自己遂行を推進する ⑤ 自己選択・自己決定・自己遂行を推進する	自立支援サービスの課題 ① 自己選択・自己決定・自己遂行を推進する ② 自己選択・自己決定・自己遂行を推進する ③ 自己選択・自己決定・自己遂行を推進する ④ 自己選択・自己決定・自己遂行を推進する ⑤ 自己選択・自己決定・自己遂行を推進する	自立支援サービスの課題 ① 自己選択・自己決定・自己遂行を推進する ② 自己選択・自己決定・自己遂行を推進する ③ 自己選択・自己決定・自己遂行を推進する ④ 自己選択・自己決定・自己遂行を推進する ⑤ 自己選択・自己決定・自己遂行を推進する

こちらが「自立支援、活動と参加促進」チームが作成した総点検シートです。

シートには、通所サービスの目標、これはどの項目も同じ内容です。各項目ごとのサービスの目的と意義、それからサービスのキーワード、サービスの到達点、他の通所事業所と差別化できていること、利用者さま、ご家族に感動いただき、地域で話題になっていること、サービスのモットー、サービスの流れなどを記入していきます。

自立支援のグループでは、目的と意義にどのような内容が書かれているかといいますと、①利用者の生活・人生をより豊かに、充実したものに（QOLの向上）、②自己選択・自己決定・自己遂行を推進する、③利用者の生活機能を向上する、④利用者が自分の生活、人生、生きざまをセルフマネジメントする、⑤活動範囲・頻度・種類・質を拡大するの5つをあげています。

べあれんと通所リハビリテーションセンターの新体制づくりの総点検とブランディング

自立支援・活動と参加の促進サービス		原田・笠井	副担当	尾崎・長松・山本	べあれんと通所リハビリテーションセンターの新体制づくりの総点検とブランディング
<p>通所サービスの目標</p> <p>リハビリテーションの地域における使命と役割は、障害や認知症を有する高齢者（若年者）に、リハビリテーション専門性を最大限に発揮し、介護保険の理念である自立支援を促進すると共に、ご家族（介護者）の介護負担を減らすことにあります。そこで、目標となるのは通所におけるサービス提供時の改善だけではなく、利用者様・ご家族での生活改善やQOLの向上に繋がること目標となります。そして、そのことを実現するするには、ご家族と連携し、通所日のみならず自宅でのホームワークなどご家族と二人三脚の自立支援の取り組みこそが目標となります。</p>	<p>自立支援サービスの目的と意義</p> <p>① 利用者の生活、人生をより豊かに、充実したものにする(QOLの向上)</p> <p>② 利用者自身の生活機能向上を促す</p> <p>③ 利用者が自分の生活、人生、生きざまをセルフマネジメントする</p> <p>④ 活動の範囲・頻度・種類・質を拡大する</p>	<p>自立支援サービスのキーワード</p> <p>理念である自立支援を促進し、QOLを高めることはべあれんと通所リハビリの使命！</p> <p>利用者の生活機能向上を促すことは、通所リハビリの使命です。利用者の自己選択・自己決定・自己実行の場を増やすことが、通所リハビリの使命です。利用者の自己選択・自己実行への仕掛けを行いながら、利用者の活躍の場を提供していきます。心身機能向上、参加・活動への働きかけも視野に入れ、在宅生活も含めた活動向上への取組を行っています。</p>	<p>自立支援サービスの到達点</p> <p>① 利用者がべあれんと通所リハビリ再生に参画できる</p> <p>② 利用者が自宅でもべあれんとでも、何か一つでも役割を持って活動できる(自助)</p> <p>③ 利用者の自己選択・自己決定・自己実行の場が増える</p> <p>④ 利用者自身がべあれんとでの過ごし方を創造し、それに沿って活動できる</p>	<p>自立支援サービスの課題(改善ニーズ)抽出</p> <p>① 予定表があり、一人一人施設内の目標を視覚化できる。</p> <p>② 主トレームがあり、自ら選択課題に取り組める。</p> <p>③ や50円券があり、自己選択する機会がある。</p> <p>④ 談話や朝の集い等、利用者主体の場がある。</p> <p>⑤ しやべろ～むがある。</p> <p>⑥ 利用者のニーズに合う浴設備を選択できる。(完全個室、個室、大風呂)</p>	<p>自立支援サービスの課題(改善ニーズ)抽出</p> <p>① 行動予定表があり、絶対に退屈しない通所リハ施設と話題になっている。</p> <p>② 規利用に100%つながる通所リハ施設だと話題になっている。</p> <p>③ が自分たちで作出す通所リハ施設だと話題になっている。</p> <p>④ がいつも輝いている通所リハ施設だと話題になっている。</p> <p>⑤ 間違いなく利用者の方が満足する通所リハ施設だと話題になっている。</p>
<p>自立支援サービスの流れ</p> <p>① 利用者さまが「自立支援」を促進していることを認める。</p> <p>② 契約の際べあれんとでは「自立支援」を促進していることを認める。</p> <p>③ 自立支援についてのパンフレットを作成する。</p> <p>④ 6月から実施</p> <p>⑤ 活用</p> <p>⑥ 自己決定ができる</p> <p>⑦ 内容決めのアシメントを行う。やってみよう</p> <p>⑧ 朝の集いで利用者さま発信の自立支援の声掛け</p> <p>⑨ 利用者懇談会で利用者自身で決定する。</p>					<p>自立支援サービスのモットー</p> <p>利用者自身が考え、行動し、べあれんと通所リハビリを再生する</p>
<p>自立支援サービスの課題(改善ニーズ)抽出</p> <p>① べあれんとで出来ていない利用者もいる。</p> <p>② 内容的にはできるが、依存性、自立への意識不足(してもらう場面が多い)</p> <p>③ 自己選択、自己実行、自己決定のサービス提供が出来ていない。</p> <p>④ 自立支援の推進</p> <p>⑤ 自立支援サービスの課題(改善ニーズ)抽出</p> <p>⑥ 自立支援サービスの課題(改善ニーズ)抽出</p> <p>⑦ 自立支援サービスの課題(改善ニーズ)抽出</p> <p>⑧ 自立支援サービスの課題(改善ニーズ)抽出</p> <p>⑨ 自立支援サービスの課題(改善ニーズ)抽出</p> <p>⑩ 自立支援サービスの課題(改善ニーズ)抽出</p>					

重要なポイントが、自立支援サービスの課題の抽出と解決策を考えると、私たちが利用者の方のケアプランを立てる工程とよく似ています。抽出した課題は、さきほどの6つの視点に沿って、分類し、その課題一つ一つに解決に向けての具体策を立てていきます

べあれんと通所リハビリテーションセンターの新体制づくりの総点検とブランディング			
自立支援・活動と参加の促進サービス	原田・笠井	朝川高規	尾崎・森松・山本
通所サービスの目標 リハビリテーションの場における使命と役割は、障害や認知症を有する高齢者（若年者）に、リハビリテーション専門性を最大限に発揮し、介護保険の理念である自立支援を促進すると共に、ご家族（介護者）の介護負担を軽減することにあります。そこで、目標となるのは通所におけるサービス提供の改善だけではなく、利用者さま、ご家族の生活満足やQOLの向上に繋がることと捉えています。そして、そのことを実現するするには、ご家族を明確にし、通所のみならず自宅でのホームワークなどご家族と二人三脚の自立支援の取り組みこそが目標とされます。	自立支援サービスの目的と意義 ① 利用者の生活・人生をより豊かに、充実したものに（QOLの向上） ② 状態・自己決定・自己遂行を推進する ③ 生活機能を向上する ④ 自分自身の生活、人生、生きざまをセルフマネジメントする ⑤ 活動範囲・頻度・種類・質を拡大する	自立支援サービスのキーワード 理念である自立支援を促進し、QOLを高めることはべあれんと通所リハビリの使命です。利用者の生活機能を向上させることは、通所リハビリの使命です。利用者の自己選択・遂行への仕掛けづくりを行いながら、利用者の活躍の場を提供していきます。心身機能向上、参加・活動への働きかけも視野に入れ、在宅生活も含めた活動向上への取組を行います。	自立支援サービスの到達点 ① 利用者がべあれんと通所リハビリ再生に参画できる ② 利用者が自宅でもべあれんとでも、何か一つでも役割を持って活動できる(自助) ③ 利用者の自己選択・自己決定・自己遂行の場が増える ④ 利用者自身がべあれんとでの過ごし方を創造し、それに沿って活動できる ⑤ 朝の集い・夕の集い・利用者懇話会・集団の中で利用者同士助け合える
他の通所事業者と差別化できていること ① 平等であり、一人一人施設内での目標を視覚化できる。 ② 主トレームがあり、自ら選択し課題に取り組める。 ③ や50円券があり、自己選択する機会がある。 ④ 懇話会や朝の集いの集い等、利用者主体の場がある。⑤ シャペル〜むがある。	利用者さま。ご家族に感動いただき地域で話題になっていること ① 利用者さまのニーズに合う入浴設備を選択できる。（完全個室、個室、大風呂） ② 行動予定表があり、絶対に退屈しない通所リ施設と話題になっている。 ③ 規利用に100%つながる通所リ施設だと話題になっている。 ④ 自分たちで作出す通所リ施設だと話題になっている。 ⑤ 自分が知っている通所リ施設だと話題になっている。 ⑥ 紹介すれば間違いなく利用者の方が満足する通所リ施設だと話題になっている。	自立支援サービスの流れ ① ご利用者さまとご家族との間で「自立支援」を促進していることを説明。 ② 自立支援についてのパンフレットを配布。 ③ 6月から実施。 ④ 自己選択、自己遂行、自己決定ができる。 ⑤ 内容決めのアンケートを行う。やってみようことやこんなことがあればもっと良くなるなど。 ⑥ 朝の集いで利用者さま発の自立支援の声掛け。 ⑦ 利用者懇話会で利用者自身で決定する。	自立支援サービスのモチー ① 自立支援の勉強会（案内センター長が実施済み） ② 自己選択、自己遂行、自己決定できるようなグループングを準備（グループワーク担当と一緒に） ③ 「私の手記」の各自担当の内容把握 ④ 定期的な評価、内容確認（カンファ1週間前にお互いに手記、担当2人又は担当同士で話し、本人に説明。） ⑤ 褒め上手になる。
自立支援サービスの課題(改善ニーズ)抽出 a. 利用者の生活・人生をより豊かに、充実したものに（QOLの向上） b. 状態・自己決定・自己遂行を推進する c. 生活機能を向上する d. 自分自身の生活、人生、生きざまをセルフマネジメントする e. 活動範囲・頻度・種類・質を拡大する	自立支援サービスの課題(改善ニーズ)抽出 a. 利用者がべあれんと通所リハビリ再生に参画できる b. 利用者が自宅でもべあれんとでも、何か一つでも役割を持って活動できる(自助) c. 利用者の自己選択・自己決定・自己遂行の場が増える d. 利用者自身がべあれんとでの過ごし方を創造し、それに沿って活動できる e. 朝の集い・夕の集い・利用者懇話会・集団の中で利用者同士助け合える	自立支援サービスの課題(改善ニーズ)抽出 a. 利用者がべあれんと通所リハビリ再生に参画できる b. 利用者が自宅でもべあれんとでも、何か一つでも役割を持って活動できる(自助) c. 利用者の自己選択・自己決定・自己遂行の場が増える d. 利用者自身がべあれんとでの過ごし方を創造し、それに沿って活動できる e. 朝の集い・夕の集い・利用者懇話会・集団の中で利用者同士助け合える	自立支援サービスの課題(改善ニーズ)抽出 a. 利用者がべあれんと通所リハビリ再生に参画できる b. 利用者が自宅でもべあれんとでも、何か一つでも役割を持って活動できる(自助) c. 利用者の自己選択・自己決定・自己遂行の場が増える d. 利用者自身がべあれんとでの過ごし方を創造し、それに沿って活動できる e. 朝の集い・夕の集い・利用者懇話会・集団の中で利用者同士助け合える
自立支援サービスの課題(改善ニーズ)抽出 a. 利用者がべあれんと通所リハビリ再生に参画できる b. 利用者が自宅でもべあれんとでも、何か一つでも役割を持って活動できる(自助) c. 利用者の自己選択・自己決定・自己遂行の場が増える d. 利用者自身がべあれんとでの過ごし方を創造し、それに沿って活動できる e. 朝の集い・夕の集い・利用者懇話会・集団の中で利用者同士助け合える	自立支援サービスの課題(改善ニーズ)抽出 a. 利用者がべあれんと通所リハビリ再生に参画できる b. 利用者が自宅でもべあれんとでも、何か一つでも役割を持って活動できる(自助) c. 利用者の自己選択・自己決定・自己遂行の場が増える d. 利用者自身がべあれんとでの過ごし方を創造し、それに沿って活動できる e. 朝の集い・夕の集い・利用者懇話会・集団の中で利用者同士助け合える	自立支援サービスの課題(改善ニーズ)抽出 a. 利用者がべあれんと通所リハビリ再生に参画できる b. 利用者が自宅でもべあれんとでも、何か一つでも役割を持って活動できる(自助) c. 利用者の自己選択・自己決定・自己遂行の場が増える d. 利用者自身がべあれんとでの過ごし方を創造し、それに沿って活動できる e. 朝の集い・夕の集い・利用者懇話会・集団の中で利用者同士助け合える	自立支援サービスの課題(改善ニーズ)抽出 a. 利用者がべあれんと通所リハビリ再生に参画できる b. 利用者が自宅でもべあれんとでも、何か一つでも役割を持って活動できる(自助) c. 利用者の自己選択・自己決定・自己遂行の場が増える d. 利用者自身がべあれんとでの過ごし方を創造し、それに沿って活動できる e. 朝の集い・夕の集い・利用者懇話会・集団の中で利用者同士助け合える

例えば「自立支援・個別ケアの推進」の視点に分類された「べあれんとではできていても家ではしない利用者さまもいる」という課題に対して具体策として「べあれんとで行っていることをご家族に伝える、リハや通所での活動の様子を写真に撮って送る、基本の書式を作り、担当者ごとに毎月の人数を決め、定期的にご家族への情報提供を行う」といった課題に対する解決策をみんなで考えています。

「心豊かなスタッフ育成」に分類された「利用者ができたことに共感できる職員の意識に差がある」「利用者一人一人が輝ける場面を見つけられていない」という課題に対して、まずは職員の気づきの力をつけていこうという目的で、「朝の申し送り時に他の職員の良いところを伝え褒めあおう」という具体策を立てています。

このようにひとつずつ丁寧に課題抽出と具体策を考えていきます。

送迎サービス班 行動計画表	具体的な24項目のアクションプラン												
	20200517	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月	2月	3月
①c 個人送迎カード作成 (みんなで)			○	○	○								
②a 送迎時接遇マニュアル作成(宮内)			●	○									
②b 車への誘導方法の検討(讃岐)			●	○									
②de G/BOWL検討またはペットボトル挑戦(みんなで)			○	○	○	○	○	○	○	○			
②de 無事故無違反コンテスト参加(田原)			●										
②de 無事故・無違反の日数表記(小田)			●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
②de ドライブレコーダーの設置(宮内・購入伝票)			●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
③a リハ職の送迎参加 (小田・宮内)			●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑥a 送迎時の過ごし方マニュアル(みんなで) 要検討							○	○					

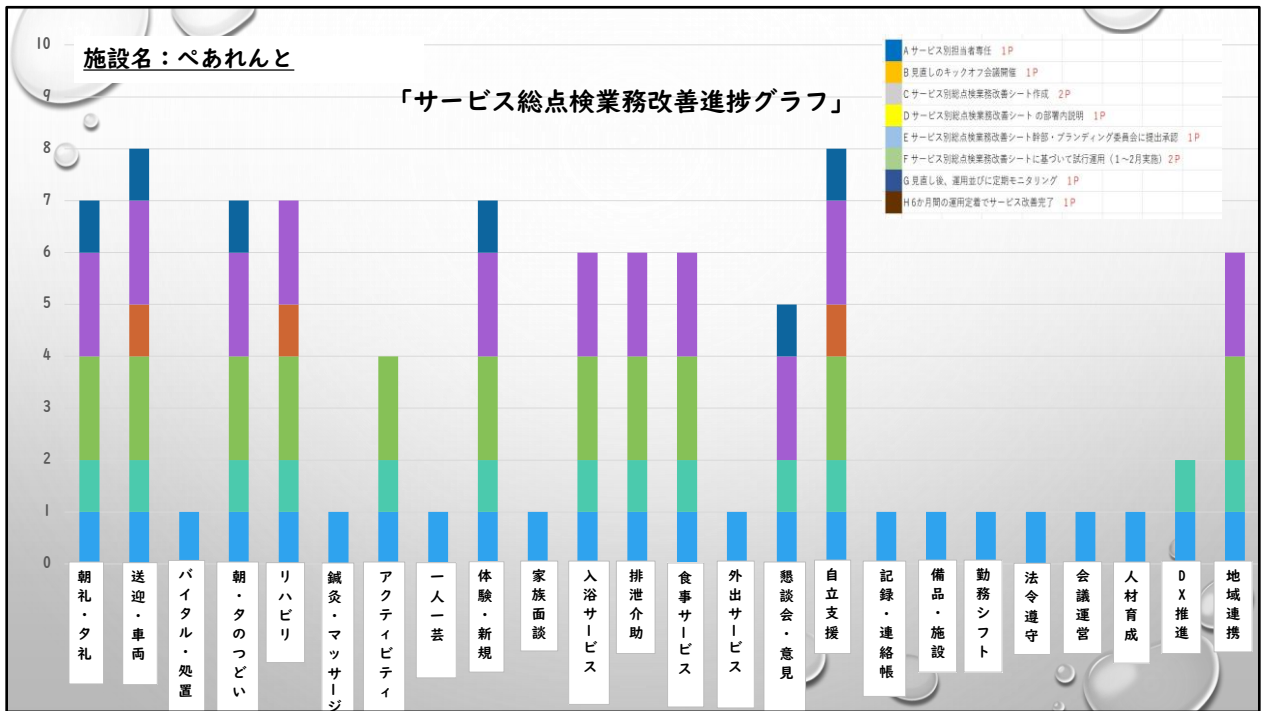
こちらが解決のための具体策のアクションプランです。これは送迎サービス班の行動計画表ですが、プランを実行する月は白丸記入、実施できたものは黒丸で記入していきます。ポイントは、それぞれの項目を誰が行うかということを確認しておくことです。シート完成後はこのような課題解決のためのアクションプランを立て、1か月から2か月に1回、進捗状況の確認と必要時はプランを変更していきます。



これは自立支援チームの会議風景です。通所の職員、リハビリ、相談員で話し合いを行っています。
チームによっては時間内にミーティングを行うこともありますが、ほぼ時間外で30分から1時間程度で実施しています。
1カ月に1回なので、個人個人で宿題を持ち帰りながら進めていますので、シート完成までに時間がかかることもあります。

「サービス総点検業務改善進捗グラフ」																								
施設名：べあれんど										通所リハビリテーションの新体制づくり (R4年6月4日作成)														
サービス内容	1 朝礼・夕礼 (向山・高橋)	2 送迎・車両 (田原・大塚・藤井・佐藤・笠井・小田)	3 バイタル・処置 (梅田・原田・伊藤・藤本)	4 朝・夕の集い (世羅・笠井・小林・田村)	5 リハビリ (向山・長松・弘中)	6 鍼灸マッサージ (高橋・濱本・宮道・岩本)	7 アクティビティ (世羅・見玉・小林・平田・今村)	8 一人一芸 (藤堂・日高・石本)	9 体験・新規 (豊岐・長井・高橋・尾崎・真鍋)	10 家族面談 (高橋・笠井・松富・竹中・岩本)	11 入浴サービス (笠井・高橋・長松・福谷)	12 排泄介助 (河内・鉄井・竹中)	13 食事サービス (新原・倉田・濱本・國光・中堀・弘中)	14 外出サービス (藤堂・豊岐・藤井・小田)	15 懇談会・意見 (見玉・尾崎・高橋・笠井)	16 自立支援 (原田・笠井・長松・尾崎)	17 記録・連絡帳 (伊藤・笠井)	18 備品・施設 (日高・平田・鉄井)	19 勤務シフト (高橋・笠井)	20 法令遵守 (高橋・笠井・長井)	21 会議運営 (向山・笠井・松富・福谷)	22 人材育成 (河内・高橋・今村)	23 DX推進 (原田・小田〔事務〕宮道・天野)	24 地域連携 (長井・笠井・吉田・尾崎)
A 担当専任	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
B キックオフ	1	1		1	1	1		1		1	1	1	1		1	1						1	1	
C シート作成	2	2		2	2		2		2		2	2	2			2							2	
D シート説明																								
E 幹部承認		1			1										1									
F 試行	2	2		2	2			2		2	2	2			2	2							2	
G モニタリング	1	1		1					1						1	1								
H 改善完了																								

24項目総点検を行いながら、進捗状況をグラフ化していきます。
 進捗状況を表すために、実施内容をA～Hの8項目に分け、それぞれ
 を点数化し、実施できた項目については加算をしていきます。



ポイントを加算するとこのようにグラフ化され、総点検の進捗状況がわかり、取り組まなければならない内容が把握しやすくなります。



総点検を行うことで見えてきた事・・・

- ①今まで行っていた業務が、やり方や考え方をえることで効率的に行える。
- ②24項目同士のつながりが必要な事が多くある。
- ③アクションプラン実行の中で利用者の新たな能力の発見につながる。
- ④職員の気づきの能力に気づかされる。



24項目の総点検を行うことで、色々なことが見えてきました。

今までやっていた当たり前だと思っていた業務がやり方や考え方をえることで、もっと業務が目的に沿って、かつ効率よく行えるものがたくさんあること、24項目同士の連携やつながりが必要なことが多くあること、アクションプランを実行していく中で利用者さまの新たな能力の発見につながったりと、色々な気づきがありました。

また、利用者の方だけの能力の発見だけでなく、職員からもたくさんの気づきが出され、職員のスター作りにもつながって来ていると思っています。

ご静聴ありがとうございました。



以上、通所リハビリのサービスの総点検についてお話させていただきました。

このような取組を業務の中で展開していくことは、大変ではありますが、ご利用者さまの意外な一面や、ご利用者さまの成長を垣間見ることもできたり、職員の隠れた才能も見出せたりと、新しい発見がたくさんあります。

まだまだ発展途上のぺあれんとですが、オンリーワンの通所リハビリ施設として地域の中で評価していただけるように、職員一同頑張っていこうと思っています。ご清聴ありがとうございました。